この10年・これからの10年

①介護業界この10年

異常行動無くす 認知症ケア主流

「病院で死亡」と葬儀参列者に嘘

かつては「認知症は隔離」

「特別」から「普通」のものへ

ウエルビー
青木正人代表

たのか」「10年後、業界はどうなっているのか」の検証に加え、10年前に発生した「コムスン騒動」を振り返る（23ページまで）。

高齢者住宅における、ここ10年の変化で最も大きかったことは「高齢者住宅で亡くなることに対する意識」だろう。

もちろん、高齢者住宅内で最期を迎える人は10年前にも少なからず存在していた。しかし、住宅側も、家族側もそれを公言することは憚られる雰囲気があった。公益社団法人全国老人福祉施設協議会（東京都千代田区）の桝田和平介護保険事業等経営委員会委員長が語る。

「実際には特養のベッドの上で亡くなっていても、葬儀の場では世間体を気にしてか家族は参列者などには『○○病院で亡くなった』と説明することが普通でした。特養職員が葬儀に参列したり、花や香典を出したりすることなど、とてもできませんでした」

それが、今では葬儀会社の車が堂々と高齢者住宅に出入りし、祭りなど住宅内でのイベントを手伝ったりしている。入居者が亡くなると、共有スペースでお別れ会をすることも珍しくない。

「別に、私たちの意識が変わったわけではありません。入居者や家族の意識・要望がこの10年で大きく変わったのです」（桝田委員長）

認知症ケアに対する意識も大きく変化した。「痴呆症」が「認知症」に言い換えられたのは2004年。2006年時点では新しい用語の浸透も十分ではなく、ケアについても「異常行動を無くすことがいいケアであると考えられていました」（桝田委員長）という。

例えば、異食行動が見られる人の場合には「口に入れてしまう可能性のあるものを、徹底的に周囲から排除する」という考え方だった。結果として、認知症の人の居室はベッド以外には何もない非日常的な空間となり、しかも「認知症棟」などとして周業者も多い。

このあたりは、介護の担い手を民間事業者が占める割合が高くなってきたこと、それら民間事業者の中にはサービス業を母体とするところがあること、事業所間の競争が激しくなり、接遇マナーも事業所選びの大きなポイントになっていることなどが理由だ。

しかし、昨年の介護報酬改定を見ても国は小規模多機能型居宅介護事業所や看護小規模多機能型居宅介護事業所など「地域密着・小規模」な介護サービスの普及を図る方向性が見て取れる。介護・福祉ジャーナリストの浅川澄一氏は「かつて、宅老所がやってきたケアの精神を復元させる動きが進んでいる」と表現する。そうなると、「スタッフ・利用者全員でひとつの家族といった雰囲気」と「○○様と呼ぶ」といったスタイルのケアとは、相容れないのではという懸念も生じる。

このほかにも、この10年間で業界にはさまざまな変化があった。

例えば、食事では、かつては食中毒を心配して「刺身は出さない」というところも多かった。しかし今では「寿司バイキング」などは珍しい取り組みではなくなっている。介護食の味の向上やメニューの充実ぶりも目覚ましいものがある。

高齢者住宅の建物自体も、以前は「いかにも施設」といったデザインだったが、今では通常のマンションと見分けがつかない瀟洒なデザインのものも増えている。

中には、人材確保の問題など、この10年間で事態が深刻になったものもあるが、ほぼ全てにおいて10年前と今とでは「今の方がよくなっている」と言えるだろう。

今後の介護・高齢者住宅業界は人材不足・介護報酬引下げへの懸念など、いくつかの問題を抱えている。しかし、この10年でさまざまな形で質の向上や改善が図られてきた。この流れが停滞することが無いように、業界に携わる全ての関係者が努力する必要があるだろう。

10年前は、まだまだ一般消費者にとって、高齢者住宅は金銭的・心理的にハードルが高い存在でした。そのハードルが一気に下がったのがこの10年だったと言えます。それには、より低価格で入居が可能な商品開発を進めた、住宅地など消費者に身近な場所での開設を進めた、行事に地域住民を招くなど地域との結びつきを強めた、など事業者側の努力や工夫もあります。それに加えて、消費者側に「高齢者住宅に入るのは特別なことではない」という考えが根付いたことが大きいでしょう。日本では、高齢者人口に占める高齢者住宅入居者の割合が欧米に比べて低いですが、将来的には欧米並みの水準に近づくのではないかと考えています。

10年前の介護業界

大手事業者の規模 今の1/3

2006年当時の介護業界はどの様な様子だったのだろうか。

2006年度の介護給付費総額は６兆4000億円。介護保険がスタートした2000年度の給付費総額は３兆6000億円だったので、６年で２倍弱に市場規模が拡大したことになる。この６年に比べると、その後10年間の給付総額の伸び率はそれほど急激ではない。報酬の引き下げや特定施設の総量規制の影響などが大きいだろう。因みに当時の介護保険料の平均は月4090円。

高齢者住宅マーケットの規模はどの程度だろうか。本紙が毎年８月に発表している「高齢者住宅・施設運営居室数ランキング」によると、2006年７月末時点で、メッセージは5993室、ベストライフ5010室、ベネッセスタイルケア4958室など。2015年７月末の最新データと比べると、メッセージとベネッセは約３分の１、ベストライフは６割の事業規模だ。

つながっているから、あなた
MeLL+は、地域包括ケアを実現
医療と介護がシームレスにつな
医療・介護連携サービス
MeLL+
メルタス
訪問系サービス
・訪問看護ステーション
・訪問介護事業所
通所系サービス
・デイサービスセンター
施設系サービス
・介護老人保健施設
・介護老人福祉施設
パソコンだけでなく、タブレッ
MeLL+を、
会場でぜひご体感ください！
ご来場心よりお待ちしております。
第22回 高齢者・障がい者の快適な生活を提案する
バリアフリー2
インテックス大阪
株式会社ワイズマン 本社
岩手県
MeLL+について詳しくは
HPまたはフリーダイヤルにて
お問い合わせください。
0120-442-9
営業時間 9:00～18:00(土日

COOKPAD